

あかしユニバーサル情報誌

# ひなた ぼっこ

第7号



## CONTENTS

- 1p 15歳以上の方のひきこもり支援事業所を紹介します
- 2p お店の紹介
- 3p~4p 特集 安永さん事件を風化させないために…
- 5p ユニバーサルなキラリさん!
- 6p 第35回 人権啓発作品 優秀賞受賞 人権作文
- 7p ヘルプマーク・ヘルプカードを知ってますか?

もう“子どもじゃないから”と一人で悩んでいませんか。

# 15歳以上の方対象のひきこもり支援事業所を紹介します

～ 今回は明石市内の事業所を紹介します ～

小久保

## ランタン

「ランタン」は15歳以上で、家族以外と話す機会があまりない方々などにゆったりと過ごしていただく居場所です。

いろいろな  
悩みを相談したい

専門職の方との相談会など、  
一人ひとりに応じた活動を  
支援していきます。

何かに  
チャレンジして  
みたい

ちょっとだけ、あなたのキモチを  
伝えてみてください。一緒に  
“きっかけ”を作りましょう!



「自分の居場所って、どこにあるんだろう…？」って思ったとき、ぜひランタンの部屋に遊びに来てください。  
あなたのペースに合わせて、お茶でもしませんか?



所在地 明石市小久保6丁目4-6 グランメゾンアニー 1階

開催日時 毎月第3土曜日 / 13:00～16:00

お問合せ 一般財団法人こどもサポート財団 定員 5～7名

TEL 078-945-5280 FAX 078-995-9443 メール contact@kodomo-fd.org

こどもサポート財団  
公式ホームページ▶



魚住町

## ハレットケ基地局

### アウトドアな空間で、インドアを楽しむ

“キャンプ場のような空間でみちくさできる場所”をコンセプトに  
「自分のペースで気軽な気持ちで”みちくさ”してもらいたい…」と思っています。

### ▼こんな方、大歓迎です。▼

- 何かをしたいわけじゃないけど、だれかと一緒に時間もあっという間。
- 日々の生活で生きづらさを感じている。周囲に話づらい。
- 学校に行きたくない子どもが心配。居場所を作ってあげたい。



所在地 明石市魚住町金ヶ崎1441-1 みちくさ本舗 2階

開催日時 毎月第3日曜日 / 13:00～16:00 定員 5～8名

お問合せ 特定非営利活動法人マーチング TEL 078-203-6357 メール marching@iris.epnet.ne.jp



# 明石市内の、ほっこり笑顔になれる店♪

## お店の紹介①

魚住町

### 「たんたん駄菓子堂」

たんたん駄菓子堂店主の丹野と申します。  
“みなさんの日曜にひとかけらのワクワクを”がこのお店のコンセプトです。

ご来店くださった皆様が、思わず笑顔になるようなお楽しみの場所になれるように色々なワクワクを仕掛けていきますので、期待しててくださいね！



所在地 明石市魚住町金ヶ崎1441 営業時間 毎週日曜日 10:00～16:00 駐車場 基本的にはなし

## お店の紹介②

山下町

### 「木のおもちゃ ころころ」

JR明石駅から東へ徒歩6分。ヨーロッパや日本の木製玩具や家族みんなで楽しめるボードゲームなど「あそびの道具」を販売しているおもちゃ屋です。

日々子どもと一緒に過ごすなか「遊びは優しく五感を刺激するものから」「遊んで楽しいのが一番！」と一人ひとりの成長に寄り添ったおもちゃ選びと遊びをご提案しています。「子どもが『楽しい』と感じ『もっとやってみたい』と主体的に遊びたくなる。」そんな気持ちを大切に積み重ねていくなかで、子どもの成長を手助けできればと考えています。店では実際に手に取ってさわって試せるおもちゃもたくさんご用意していますので是非一度お立ち寄りください。



所在地 明石市山下町5-34 グランドシャトー102 TEL 078-915-7532 駐車場 なし

営業日 木～日曜日（ホームページの営業カレンダーでご確認ください） 営業時間 10時～17時

定休日 月・火・水 第1・3日曜日（その他臨時休業あり） ホームページ <https://coro2.jimdofree.com/>





安永健太さん

# 安永さん事件を風化さ

2007年9月25日に発生した安永健太さんの事件を

## あの日、いつもの帰り道で…

佐賀市において、中等度の知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害のある安永健太さん(当時25歳)が、自転車に乗って障害者作業所から帰宅中、5人の警察官に取り押さえられ亡くなる事件が起きました。

この事件が残したものを風化させないために、当時を振り返ります。



## 健太さんの父・安永孝行さん

健太さんの父・孝行さんをはじめとする、ご遺族は「健太さんがなぜ命を落としたのかを明らかにしたい」「警察の対応は本当に適切だったのかを検証して欲しい」との思いで裁判を始めました。

## 健太さんの弟・安永浩太さん

事件後、警察の説明は2転3転しました。さらに警察官の暴行をみたという証言が調書にのらない等、警察の不可解な対応が繰り返されます。その後、8年の長い歳月をかけ法廷で争いますが、最高裁は遺族側の上告を棄却。真相は闇の中へ消えてしまいました。

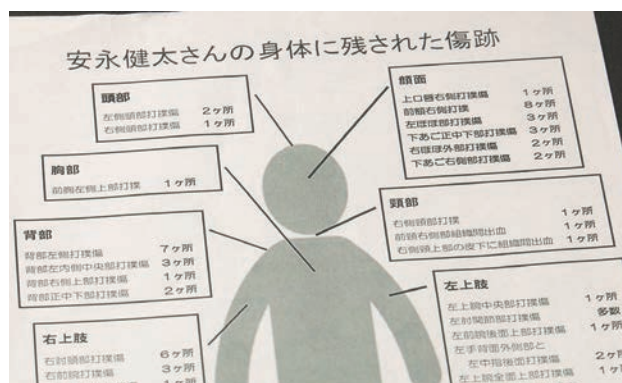


## 事件当時の自転車

自転車の前輪と前かごがひしゃげ、事故の強い衝撃が伝わる。「結構ひどうぶつかるとるもん」と語ったのは、健太さんの父、孝行さん。

## 無数の傷跡が意味するもの

事件当時の健太さんは「精神錯乱」の状態であり、警察の行為は正当であるとの判決が出されました。しかし、本当にそうなのでしょうか。健太さんの身体に残された無数の傷跡が意味するものは、何だったのでしょうか。



健太さんの身体に残された傷跡のリスト

# せないために…

ご存じですか？

## 新聞各紙が、健太さんの事件を大々的に報じます。

この判決に対し「事実は見えず…本質を突かない審理になっている」(佐賀新聞)、「『現場で何があったのか分からなかった。判決は納得できない』と落胆するのも理解できる」(西日本新聞社説)等、新聞各紙も疑問を示しました。



## あの日の事を忘れないために…

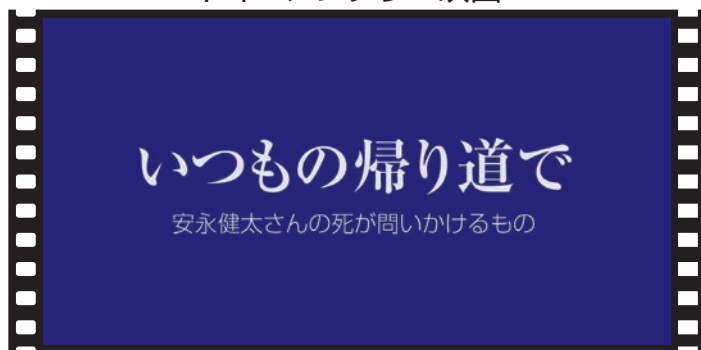
### 新作ドキュメンタリー映画を公開

安永健太さん事件を知る多くの障害のある人やその家族、支援者は、我が事のように健太さんを悼み、第2第3の健太さん事件が起きることがあってはならないとの思いを持っています。

しかし、この事件について、社会一般はもちろん、障害福祉に携わる者のなかでも、周知されているとは言えない状況にあります。2021年9月に行なったこの事件に関するオンラインシンポジウムでは、360人の参加者のうち、「この事件を知らなかった」「こんなことがあったなんて驚いた」といった人たちが少なくありませんでした。

本作は、安永健太さん事件が残したものを風化させずに社会に広げ、ひいては障害への社会の理解を広げていくために制作されました。

### ドキュメンタリー映画



(2022年/30分/監督・今井友樹)

### 【あらすじ】

障害者作業所から帰宅途中に、警察官によって取り押さえられ亡くなってしまった安永健太さん(当時25歳)は、なぜ死ななければならなかったのでしょうか。

遺族である父親・孝行さんや弟・浩太さんをはじめ、裁判に関わった弁護士や支援者たちが当時をこもこも振り返ります。

### 【出演(登場順)】

安永 孝行/安永 浩太/河西 龍太郎/甲木 美知子  
古賀 知夫/藤岡 毅/佐々木 桃子/田中 洋子  
藤井 克徳



監督・今井友樹さん

### 【制作】

監督/今井 友樹 撮影/伊東 尚輝・小原 信之  
撮影助手/姚 亦涵・服部 記昌  
ナレーション/柴田 暦 音楽/関根 真理  
整音/姫田 蘭 制作/工房ギャレット

### 【企画・製作】

安永健太さん事件に学び 共生社会を実現する会  
(略称:健太さんの会)

 YouTube にて無料配信中!!



ノーマル版 日本語字幕入り 日本語字幕・手話入り 音声ガイド入り

**YouTube 公式チャンネル**

安永健太さん事件に学び共生社会を実現する会  
<https://www.youtube.com/@user-yo2ml3sr3n>

公式ホームページ「知的障害のある安永健太さんの死亡事件を考える」  
<http://yasunagajikenwokangaeru.blogspot.com>

# ユニバーサルなキラリさん!



## キラリさん その①

特定非営利活動法人  
アイ・コーポレーション神戸  
理事長 **板垣 宏明**さん

### ①法人の代表になった経緯は?

弊所の前理事長は、脊椎肩障者協会の理事をされていたり、すごく活動的で、たくさんのネットワーク(人望)を持っていて、アイコラボの「顔」でした。そんな偉大な人間に憧れて、仕事も外部のイベントなどにも精力的に活動し、アイコラボの顔になれるよう10年間いろいろ取り組んでまいりました。結果、その培った活動が、所内のメンバーにも認められて、7年前より理事長をさせていただいております。

### ②主なサービス内容をお聞かせください。

弊所は、WEB制作を全般にしており、デザインからコーディングまで、ほかにはシステム開発やアプリのUI設計やユーザテスト、アクセシビリティに対応したJIS診断、ユーザ評価、職員研修などを事業としております。弊所アーティストによる作品作り(ポストカードやカレンダー)の販売、また、障害当事者に有用な音声AR案内ナビ「ナビレンス」の普及活動にも取り組んでいます。弊所主催であるイベント「アクセシビリティの祭典(<https://accfes.com/>)」や「わたしたちの未来をつくるアイデアソンハッカソン(<https://mirai-commons.com/>)」も開催しております。



### ③法人が大切にしていること

障害が理由で、自身の強みや長所が損なわれぬように、むしろそれが価値として活かせるように、各々の想いや能力を大事にしています。また、イベントなどで知り合った縁やお世話になっているかた、われわれを可愛がってくれているかたたちとのつながりは財産だと思い今後も大切にしていきたいと思っています。

### ④今、力を入れていることは?

ウェブサイトやアプリのユーザテストや診断、アーティストの作品作りとたくさんのかたがたに知ってもらう、また、日本中にナビレンスが普及するよう啓発など、いまある事業にはすべてにおいてちからを入れております。

### ⑤今後の展望や目標は?

障害当事者のみならず、世界中のすべてのひとが使いやすいウェブサイトやアプリになるよう、日本中にナビレンスが普及するよう、従来の事業を引き続き、また、多種多様な当事者たちが活発に存分にちからを発揮できる職場作りなど、価値を見出せるものには全力で取り組んでいきたいと思っています。



〒650-0047  
神戸市中央区港島南町1丁目5番地2号 神戸キメックセンタービル 2階E号室  
<https://ickobe.jp/>



## キラリさん その②

社会福祉法人 すいせい  
理事長 **岸田 耕二**さん

### ①法人の代表になった経緯は?

2002年に法人設立時にオープニングスタッフとして入社し、2016年に4代目の理事長として他人承継を受けました。

### ②主なサービス内容をお聞かせください。

法人設立時は母体が、精神障害者の家族が運営する作業所でした。そのため当初は精神障害者の相談・居場所として活動を始めました。2006年自立支援法が施行されたときには工賃アップを目指し作業にも力を入れました。就労支援にも徐々に力を入れ、対象も精神障がい者から発達障がい者と広がり、若年の方も増えました。2008年ごろから全国に先駆け大学生支援なども力を入れ、現在は引きこもり、児童養護など多岐に渡った就労支援や古民家caféを開設し、地域づくりなども行なっています。

事業としては生活・就労・発達障害のセンターや学生やひきこもりの就労支援を兵庫県・神戸市から委託を受けています。通所の居場所や訓練として、地域活動センター、B型事業所、就労移行など6つの通所事業を運営しています。

### ③法人が大切にしていること

初代理事長はじめ創業メンバーは民間企業経験者が多かったため、「ベンチャーの感覚を持とう」「福祉バカにならないように」という言葉を受けて育ちました。

“ないものは創る、開拓する”という風土もその影響が大きいです。

また人事も福祉・心理資格者だけでなく、営業・システムエンジニア・教

員・労働局行政・当事者など幅広い経験を持つスタッフに入ってもらい人財が多様になるようにすることも意識しています。

支援対象も本人・家族だけでなく地域、企業を巻き込んで、福祉だからといって施しではなく誰もが役立ち合える社会になるような仕掛け作りや開拓には注力しています。

### ④今、力を入れていることは?

障がい者の就労支援の経験を活かし「ハタラクで困る人の支援」を広げています。

対象は大学生、引きこもり、児童養護などの社会に不安を持っている人や、メンタルヘルスの課題を持つ方へのリワーク支援などです。最近ではメタバース、zoomなどwebを活用した支援やスマートウォッチなどで睡眠測定や脈拍を把握した支援などテクノロジーを活用した支援などは効果的だと感じて力を入れています。

### ⑤今後の展望や目標は?

“若年者の孤独、不安感の高さ”が日本のあらゆる社会課題を物語っているように感じています。この課題が少しでも改善するように、今も全国の企業、大学、研究所などと連携をし始めていますが、“想い”を大切にしながら、科学やテクノロジー、他業種との繋がりを駆使して、より効果的支援を探究したいです。

これからますます、混迷していく世の中でソーシャルワークの力で1人でも多くの人が笑顔でいられる社会になるよう頑張ります♪



〒655-0024 神戸市垂水区御霊町6番10号 <https://www.sfsuissei.org/>

# 第35回 人権啓発作品 優秀賞受賞 人権作文

## いそこから学んだ 大切なこと

朝霧中学校 3年 ない とう あや ね 内藤 綾音さん



私のいとはダウン症です。ダウン症は、障がいのない方と比べると成長がゆっくりと進む障がいです。でも、とても優しく穏やかでかわいらしく、私はいとこのことが大好きです。

いとこが生まれてくる前に私は母から「生まれてくる赤ちゃんは障がいを持っているんだ。」と伝えられていました。当時私は幼稚園生でした。その時から、母がしていたボランティアの影響で、ある程度障がいについて知っていたのですが、当時の私は障がいがあるというのは、かわいそうなことだと思っていました。さらに、いとこの母が「綾音ちゃんみたいな元気な子を生んであげたかった。」と泣きながら言っていたというのを聞いたことが、とても心に残っています。

だから、その子が生まれる前や生まれてからしばらく経った時も私は、障がいを持っていてかわいそうだから、他の子は一人でできてもこの子には少し難しいかもしれないからと勝手に決めつけて、色々とお世話をしていました。しかし、それは本当に正しかったのかと思いつくと、必ずしも良くなかったのかなと思います。これは、中学校の道德の授業でみんなの意見を聞いて気が付きました。私達もそうですが、自分でできることまで全部されると少し悲しくなってしまいます。これは、障がいのある方でもみんな一緒だと思います。本当にサポートを必要としているところに手を差し伸べるということは、大切だと思います。しかし、そうでないところまで手助けしてしまうと、その人の大事な成長までも止めてしまうことになるのだと分かりました。



小さくてよくお世話をしたいといとも、今や立派な小学生です。弟もいて、その子の面倒も見つつ、大好きなダンスや音楽もしていて、最近では水泳も習い始めたそうです。だんだんと自立してきて意見もしっかり言えるようになったいところを見ると、私や家族からの手厚すぎるサポートは必要なくなっているのだろうと改めて思いました。

いところに限らず、他の障がいのある方を見てみても、人それぞれではありますが、かなり自立していて障がいのない方と同じように働いていたり、学校に通っている人がいます。また、この夏、阿波踊りに行った際もダウン症の女の子が踊り子さんとして踊りに参加しているのを見ました。このように、障がいのある方が大きな活躍をしているのを見ると、とても嬉しくなります。

私は身近にダウン症のいとかがいて様々な気付きがありますが、このような環境におかれている人の方が少ないと思います。だから障がいのある方と関わる機会があれば、積極的



に参加してほしいと思います。また、障がいのある方もない方も得意なことと苦手なことがあるということには変わりありません。「障がい者」という言葉を完全になくしてしまうのは難しい事ですが、お互いを同じように尊重し合い、助けを必要とする人には自然と手を貸すことのできるような世の中になってほしいです。



配慮が必要な人のために



# ヘルプマーク・ヘルプカードを知っていますか？

ヘルプマーク(カード)は、「手助けが必要な人」と「手助けしたい人」を結ぶマーク(カード)です。

障害のある人がまちに出たとき、予想もしていなかった場所で思わぬ困りごとが起こることがあります。

周りの人はそのようなときに助けを求められても「どう支援していいかわからない」という場合があります。

そこで、その両者をつなげるためのきっかけになるのがヘルプマーク(カード)です。



ヘルプマーク



ヘルプカード



## こんな方にお渡ししています

- 目や耳、言語の障害、内部障害や難病、知的障害、精神障害、発達障害など、外見では不自由さや障害に気づかれにくい方
  - 妊産婦の方
  - 認知症の方や高齢で体が不自由な方
  - けがなどにより体が不自由な方
- ※以上のほか、希望される方にお渡ししています。



## ちょっとしたあなたの手助けが、誰かの安心につながります

ヘルプマーク(カード)を持っている人への支援の内容はさまざまです。

まずはヘルプマーク(カード)を持った人が困っているところを見かけた場合は、「何かお手伝いできることはありますか？」などと積極的に声をかけるように心がけてください。

本人が何かしらの事情でうまく支援の内容を伝えられない場合は、ヘルプマーク(カード)の裏面または中身を見て、支援の方法が記載されている場合は、その方法で支援をするようにしてください。

まずは「声をかけること、気にかけること」がとても大切です。

私は〇〇(名前)です。  
何かお手伝いしましょうか。



例えば…

こんなとき、こんな場面を見かけたら ➡ こんな手助けをお願いします。

- 発作でパニックを起こしたり、病変で急に倒れてしまって、自分の病気や障害を説明できないことがあります。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。  
ヘルプマーク(カード)にパニックや発作、病変のときにどうしてほしいかが書かれていれば、その方法で支援してください。

- 知的障害のある人がずっと同じ場所にいる。  
それは、もしかしたら、道がわからなくなったのかもしれない。



まず簡単な短い言葉で優しく声をかけてください。  
ヘルプマーク(カード)に緊急連絡先が書かれていれば、そこに連絡してほしいか聞いてください。できるだけ安全な場所で過ごせるように配慮をお願いします。

### 【お問い合わせ・連絡先】

〒673-8686 明石市中崎1丁目5番1号

明石市障害福祉課 障害者施策担当

TEL 078-918-5142 FAX 078-918-5048

E-mail shoufuku@city.akashi.lg.jp ※ヘルプマークの交付には、申請手续が必要です。

【発行】特定非営利活動法人 明石障がい者地域生活ケアネットワーク(略称:135Eネット)

【連絡先】〒673-0883 明石市中崎1丁目5番1号 時のわらし内 TEL&FAX 078-918-8500 【発行日】2020年10月14日

特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク(略称135Eネット)は、地域に点在する社会資源を有機的に繋ぐと共に明石市等の行政機関と協同し、障がい者に対して社会参画促進や生活支援に関する事業を行い、障がいのある方やその家族の方が、ひいては明石で暮らす市民の方々が明石の地で安心して暮らせるまちづくりに寄与することを目的としています。

※現在明石市及び周辺地域の100以上の障がい児者支援事業所や教育機関、当事者団体が連携・連帯のもと活動しています。



<ひなたぼっこHP>

<https://akashi-ud.info/>